

NMSH Topics 33

September 2019

VOL.

今月の 院長のイチオシ

腎臓内科/血液浄化療法センター

増床で血液・腹膜透析ともに症例数が増加

腎不全進展抑制の集学的治療に定評あり

腎臓内科では急性腎不全、慢性腎臓病（CKD）、高血圧症、糖尿病性腎症、ネフローゼ症候群、慢性糸球体腎炎、遺伝性腎疾患（特に多発性嚢胞腎）、水電解質異常など腎臓疾患全般の診断と治療を得意としています。

当科の特色として、新病院オープンにあたり血液浄化療法センターを15床に増設し、体制を強化したことが挙げられます。これにより血液透析のみならず腹膜透析の導入も多くなり、患者さんのQOLや希望に合わせた透析療法を導入できる体制を整えました。その結果、2018年は血液透析70例、腹膜透析38例と新規導入が増加しています。また外来維持血液透析も開始され、腹膜透析患者のみならず、血液透析患者も当院へ外来通院可能となりました。元々都内有数の保存期腎不全患者外来数と透析導入数を誇っていましたが、体制強化により透析患者の合併症治療のための入院もさらに

受け入れやすくなりました。

もう一つの特色は、透析になる前の腎不全進行抑制治療に定評があることです。慢性腎臓病の方は多くの場合に生活習慣病などがあり、治療薬を既に服用しています。その中には腎不全の進行とともに投与量を減らすべきものが多く、これができないことで腎不全をさらに増悪させている症例が多々あります。当科はこの薬剤による腎障害を回避するための投与設計の変更にも定評があります。また腎臓疾患の知識が豊富な看護師・管理栄養士と協力し、食事や生活面の指導を早期から行っています。これらの集学的治療は外来通院のみならず教育入院によっても開始されます。またその後は紹介元の医療機関に再度定期通院していただきながら、併診として当院にも通院していただく形が基本となっています。



左：各自の専門性を生かし、チーム一丸となって患者の治療にあたる
右：病床数を増やし、より多くの患者に幅広い透析療法を実施

